

病害虫発生予察注意報(第1号)

平成26年2月27日
神奈川県農業技術センター所長

病害虫名：イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）

作物名：水稻

- 1 発生地域：県内全域
- 2 発生量：多
- 3 注意報発令の根拠

- (1) 平成26年（2014年）1月上旬から下旬に県内16地点の水田の畦畔でヒメトビウンカ越冬世代幼虫を採集し、イネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率をラテックス凝集反応法で検定した。その結果、全調査地点で保毒虫が確認された。保毒虫率の県平均は4.9%で昭和62年（1987年）以降で最も高い値であった。保毒虫率が最も高い地点は11.3%であり、保毒虫率が4%以上の地点が9地点あった（図1、表1）。
- (2) 平成26年（2014年）1月7日～28日にかけて、県内16地点の水田の畦畔でヒメトビウンカの越冬密度を吹き出し法により調査した。その結果、越冬密度の県内平均は47頭/9㎡で、平年の県内平均（33.7頭/9㎡）に比べてやや多く、昭和60年（1985年）以降では平成25年（2013年）に次いで2番目に高い値だった（図1、表2）。

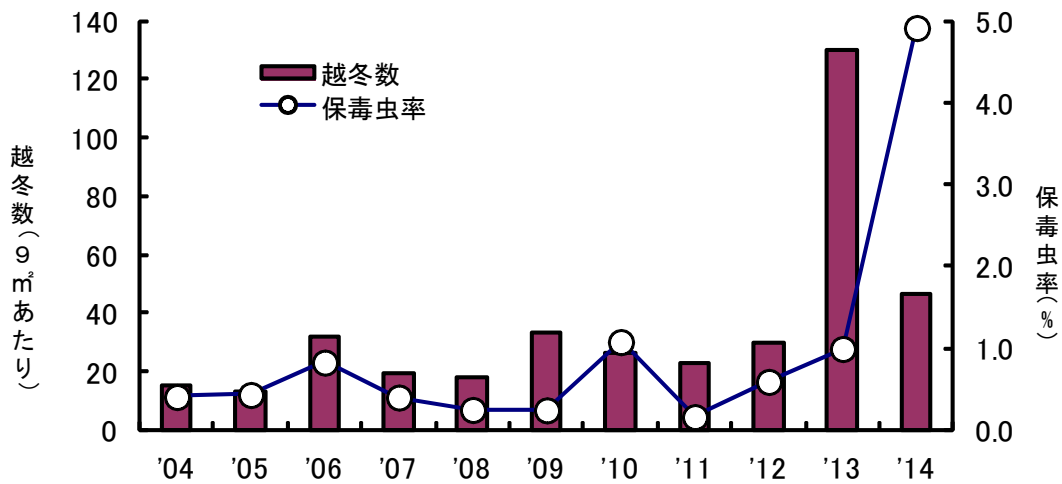


図1 ヒメトビウンカ越冬数と縞葉枯病ウイルスの保毒虫率

表1 ヒメビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率検定結果

地点	保毒虫率(%) ^{注1)}			
	本年	前年	平年	
横浜 北八朔**)	5.3	4.0	—	
藤沢 大庭	6.0	0.0	0.5	
海老名 本郷	3.3	4.0	1.0	
座間 新田宿***)	5.3	—	—	
相模原 当麻	3.3	0.7	0.5	
平塚 寺田縄	11.3	1.3	0.6	
	広川***)	6.0	—	
伊勢原 下谷	6.7	0.0	0.3	
	串橋	2.7	0.7	0.6
秦野 下大槻***)	4.7	—	—	
厚木 飯山	2.7	0.7	0.5	
	三田*)	1.3	3.3	—
小田原 桑原 ^{注2)}	3.3	0.7	0.2	
	栢山***)	4.0	—	—
南足柄 竹松/千津島*)	1.3	0.0	—	
開成 吉田島***)	4.0	—	—	
県平均 保毒虫率(平年値がない地点除く)	4.9	1.0	0.5	
保毒虫率(全調査地点)	4.5	1.4	—	
越冬数	46.8	126.0	33.7	
縞葉枯病発生度(9月)	—	0.0	0.1	

注1) 調査検体数は各地点150頭。

注2) 2009年まで鬼柳

*)2012年から調査 **)2013年から調査 ***)2014年のみ調査

表2 ヒメビウンカ越冬数調査結果^{注1)}

地点	ヒメビウンカ(頭/9m ²)			
	本年	前年	平年	
横浜 北八朔	11	18	3.7	
藤沢 大庭	14	10	11.7	
海老名 本郷	26	52	13.3	
座間 新田宿*)	17	—	—	
相模原 当麻	14	74	23.2	
平塚 寺田縄	28	76	33.3	
	広川	20	14	25.2
伊勢原 下谷	31	29	41.4	
	串橋	238	789	141.2
秦野 下大槻*)	43	—	—	
厚木 飯山	72	419	67.6	
	三田*)	6	—	—
	戸田	43	115	33.4
小田原 桑原 ^{注2)}	7	66	23.4	
	栢山	51	39	11.5
南足柄 竹松	77	34	32.0	
開成 吉田島 ^{注3)}	23	29	10.5	
県平均 (平年値がない地点除く)	47	126	33.7	
(全調査地点)	42	—	—	

注1) 調査月日：2014.1.7-28

注2) 2009年まで鬼柳

注3) 2011年まで金井島

*)2014年のみ調査

4 防除対策および防除上の注意事項

- (1) 初期の防除を徹底するために、ウンカ類に効果のある育苗箱薬剤を施用する。なお、ツマグロヨコバイの越冬密度(55頭/9m²)は平年(59.7頭/9m²)並であるため、育苗箱施薬の選択の際には、ウンカ類に効果の高い薬剤を優先する。
- (2) 必要に応じて箱施薬剤の効果が低下する時期(7月中下旬)に粒剤による本田防除を行う。
- (3) 水稻収穫後のひこばえ(再生イネ)も縞葉枯病の感染源となるため、収穫後は速やかに圃場の耕起や畦畔などの草刈を行い、ヒメトビウンカの密度低下を図る。

5 防除薬剤

本田での発生を抑えるために、育苗箱施薬による防除を必ず実施する。育苗箱施薬の農薬例を(表3)に示した。なお、農薬使用の際は、適用作物、使用量、使用濃度、使用時期、総使用回数をラベルの表示により必ず確認する。

表3 ヒメビウンカに対する稲(箱育苗)施薬例

(平成26年(2014年)2月26日現在)

薬剤名	使用量	使用時期	使用回数
グランドオンコル粒剤	1箱当り50g	移植3日前～移植当日	1回
アドマイヤーCR箱粒剤	1箱当り50g	は種時(覆土前)～移植当日	1回
プリンス粒剤	1箱当り50g	は種時(覆土前)～移植当日	1回

神奈川県農業技術センター病害虫防除部

〒259-1204 平塚市上吉沢1617

TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411

テレフォンサービス 0463-58-6612 (平成26年5月末で終了)

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>